Python/NLTKでつくる 英語前置詞誤り訂正器

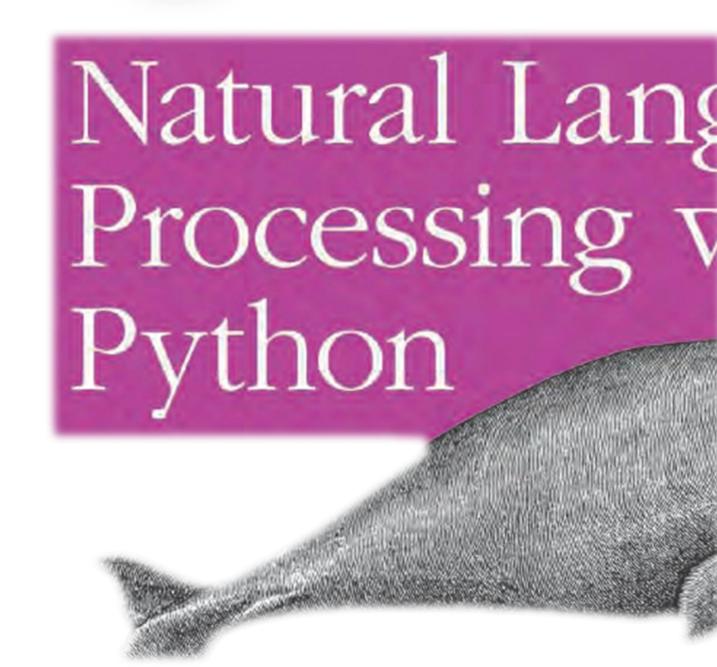
奈良先端科学技術大学院大学 自然言語処理学研究室

スプリングセミナー2012



What is NLTK?

イントロダクション



This is NLTK!!!

- Natural Language Tool Kit
- Pythonのための自然言語処理ライブラリ
- "Natural Language Processing with Python"
 「入門 自然言語処理」
 NLPの認知度を向上, 門戸を広げた本
- 現在, Python 2.5~2.7 で使うことができる
- 気になったら… http://www.nltk.org/

pip install nltk

はじめに: 環境構築

```
$git clone git://github.com/tuxedocat/ss2012.git
$cd ss2012
```

- preprocessor.py, prepchecker.py, feature_extractor.py ss2012_slide, wdiff_prep, README.md が入ります
- お手元のMacbookには…
 - nltk 2.0.1, Python 2.7.2, iPython 0.12が入っています
 - エディタ等はお好きなものをお使いください

大まかな流れ

- 前処理: CLCコーパスを処理しやすいように料理する
- 学習データ・テストデータを作成する
- ・素性関数をつくる
- ・学習事例をつくる
- MaxentClassifier を学習させる
- テストデータに対して評価を行う
- ・考察・エラー分析・改良

Cambridge Learner Corpus (CLC)

- Cambridge ESOLが実施している英語試験の回答を集めたもの
 - http://www.cambridgeesol.org/japan/
 - 135,000人の学習者
 - 世界190カ国、130の異なる母語話者
 - 一部のみ自由なアクセスが可能(他はCambridge関係者のみ)



CLCのファイルを見てみよう

- 人手で作成されたxmlファイル
- 80種類のエラータグ(例: NS type="RT"→ 前置詞置換のエラー)

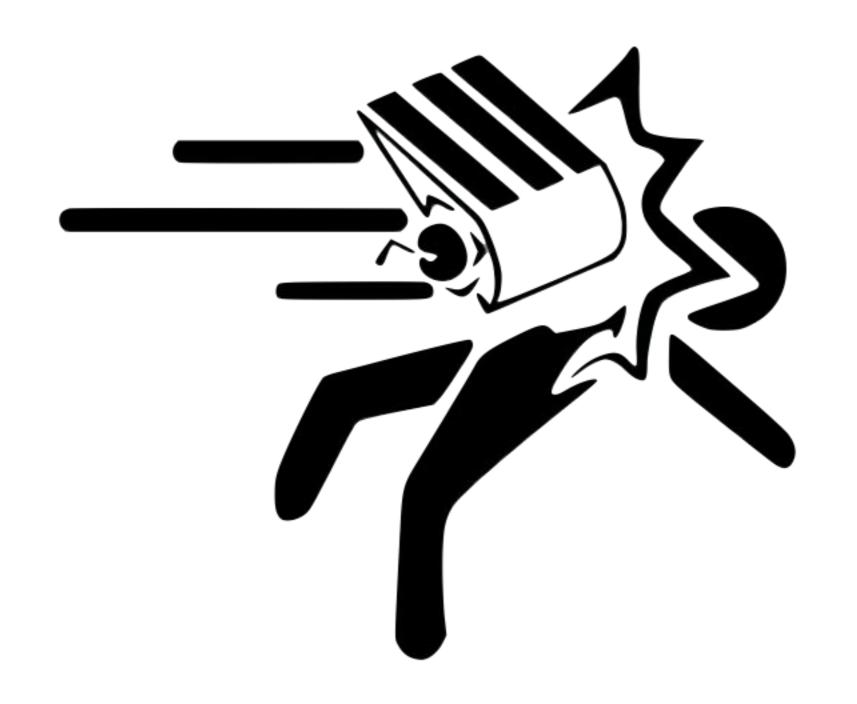
```
1 ?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>$
2 <learner><head sortkey="TR733*0100*2000*01">$
     <candidate><personnel><language>Spanish</language><age>21-25</age></personnel><score>33.0</score></candidate>$
     <text>$
       <answer1>$
          <question_number>1</question_number>$
         <exam_score>4.2</exam_score>$
 7
           <coded_answer>$
 8
            Dear Helen Ryan, $
            I have seen your letter <NS type="RT"><i>for</i><c>about</c></NS> Camp California in the U.S.A and I woul
10
   d like to travel in July because I am pretty busy with my studies and I am working with my dad in his office now.$
            First of all, you state in the letter that the accommodation at Camp California is in tents or log cabins
11
   . I would prefer to stay in <NS type="MD"><c>a</c></NS> <NS type="AGN"><i>tents</i><c>tent</c></NS> because I like bei
   ng in contact with <NS type="UD"><i>the</i></NS> nature <NS type="UN"><i>life</i></NS>.$
            Secondly, from the list of activities that you <NS type="R"><i>are also state</i><c>provide</c></NS> in t
12
   he letter I would prefer swimming because when I was a child I <NS type="RV"><i>practised</i><c>did</c></NS> this spor
   t for 8 years. In addition, I would prefer photography too because I love taking photos.$
            Finally, <NS type="RA"><i>it</i><c>I</c></NS> would be grateful if you could clarify what kind of clothes
13
   I must <NS type="TV"><i>be taken</i><c>take</c></NS> and how much I will spend during the stay at the Camp.$
            I look forward to hearing from you$
14
            Yours <NS type="DY"><i>sincerelly</i><c>sincerely</c></NS>$
15
           </coded_answer>$
16
17
        </answer1>$
18
        <answer2>$
```

前処理

・CLCコーパス(を下ごしらえしたもの:./wdiff_prep ファイル)を読み込み、誤り・訂正情報を抽出する

```
clc = open("wdiff_prep", "r").read()
```

- これでリストに入る...
- ・このままでは段落単位なので、文単位に分割する...
 - NLTKには簡易文分割関数がある(nltk.sent_tokenize)
- 文(文字列型)から正規表現を用いて訂正情報などを抽出する
- ・後で処理しやすいように整形する...



これが意外とめんどくさい

/(^o^) \ ナンテコッタイ

...前処理はこちらでやります

\$python ./preprocessor.py

- "packedcorpus.pkl" が出力されます.
 - 今回はコーパスが小さく処理も簡潔なため Pythonのpickleモジュール を使いました.
- ・ところで...
 - これは実はほんとうの意味での下拵えではないのです...
 - コーパスの整備や前処理はとても大事な工程です!!!!!!
 - ここで現役NLPerの諸氏から色々なエピソードが語られます・・・

コーパス読み込み

- シリアライズされたPython objectを読み込むには...
 - Pickle moduleを使う

```
import cPickle as pickle
corpus = pickle.load("packedcorpus.pkl", "rb")
```

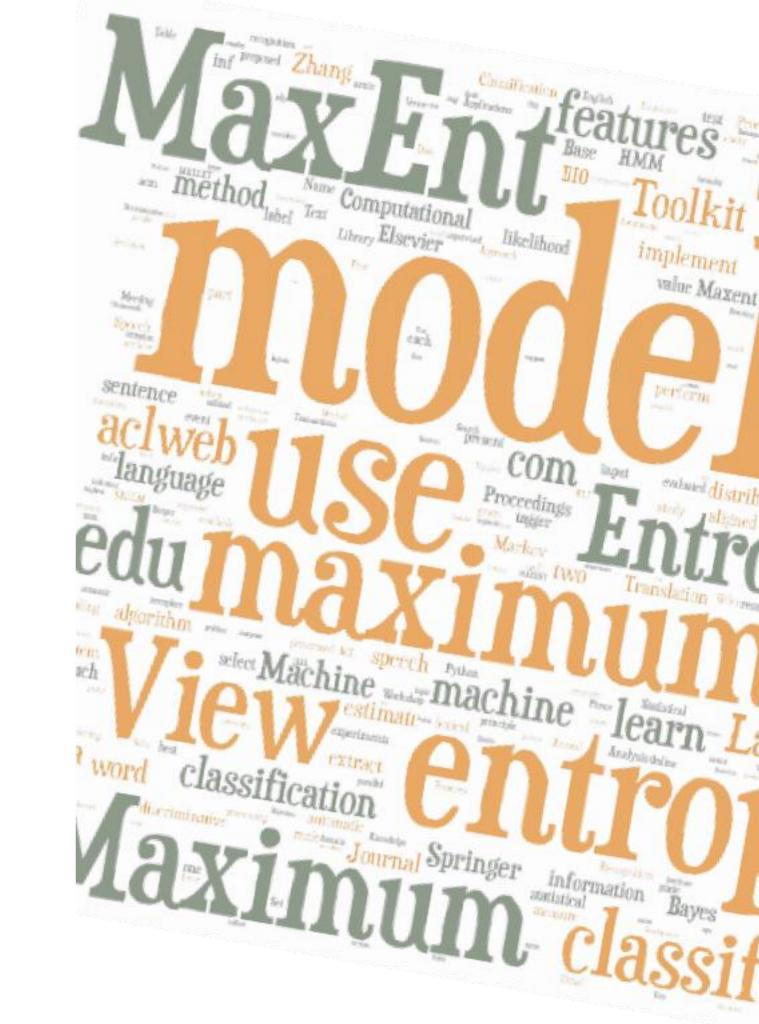
- 一文に対応するdictが入っているlist
 - key "training_words", "test_words"value = ["tokenized", "sentence", ...]
 - key "correction_pair", value = ("incorrect prep.", "correct prep.")
 - key "ppindex",value = <index of target preposition in tokenized sentence>

ここからの流れ

- コーパスを読み込む
- 素性関数をつくる ← これから
- ・学習事例をつくる
- Classifierを学習させる
- テストをする
- 結果を眺める→エラー分析

Supervised Classification

nltk.MaxentClassifierによる 最大エントロピー法分類器 を用いた教師あり分類問題 …としての前置詞訂正



最大エントロピー法: 概略

・エントロピー: 不確実さ、乱雑さの度合い。

$$H(p) = \sum -P(x)\log P(x)$$

- 不確実な状態ほど、エントロピーは高くなる
- 最大エントロピーの原則: 与えられた制約の中で、エントロピーを最大化するモデルを選ぶ。
- 例1:Mさんのじゃんけんパターンをモデル化したい。
 - 制約

(1)
$$P(\mathcal{J}-) + P(\mathcal{J}-) + P(\mathcal{J}-) = 1$$
, (2) $P(\mathcal{J}-) = 0.5$

- 最大エントロピーの原則に従うとすると、どちらのモデルが妥当か。

(ア)
$$P(\mathcal{N}-) = 0.1$$
, $P(\mathcal{F}=+) = 0.4$, $P(\mathcal{O}-) = 0.5$

(イ)
$$P(\mathcal{N}-) = 0.25$$
, $P(\mathcal{F}3+) = 0.25$, $P(\mathcal{O}-) = 0.5$

最大エントロピー法:例題

- 例2: Nさん、Lさん、Pさんが、次のように文を書いたとする。
 - Nさん: d₁(block, scissors, block), d₂(paper, scissors, paper)
 - Lさん: d₃(paper, scissors, paper), d₄(block, paper, scissors)
 - Pさん: d₅(block, block, paper), d₆(paper, scissors, block)
- 今、 d_x (block, scissors, paper)という文が来たとき、Nさん、L さん、Pさんによって書かれた確率はそれぞれいくらだろうか。

最大エントロピー法:例題

- 素性(特徴)ベクトルとそのラベル(クラス)を考えてみる
 - 例: φ(φ1,φ2,...φ9)を次のように定義する

```
ф1 = 単語 "block" が1単語目に出現ф2 = 単語 "block" が2単語目に出現ф3 = 単語 "block" が3単語目に出現ф4 = 単語 "paper" が1単語目に出現ф5 = 単語 "paper" が2単語目に出現ф6 = 単語 "paper" が3単語目に出現ф7 = 単語 "scissors" が1単語目に出現ф8 = 単語 "scissors" が2単語目に出現ф9 = 単語 "scissors" が3単語目に出現d1 = (1,0,1,0,0,0,0,0,1,0), label: Nさんd2 = (0,0,0,1,0,1,0,1,0), label: Nさんd3~d6を素性ベクトルとラベルで現してみよう。
```

最大エントロピー法:分類・まとめ

• 素性とラベルのペアをもとに、新しい文のラベルを推定する。

$$\Pr^* = \arg\max_{\Pr} H(\Pr) = -\arg\max_{\Pr} \sum_{\mathbf{x}, y} \Pr[y] \Pr[y|\mathbf{x}] \log \Pr[y|\mathbf{x}]$$

- ・ ※計算は省略しますが気になる人は以下を参考にしてください。
 - 言語処理のための機械学習入門 (高村大也 著)
 - 確率的言語モデル(北研二 著)
 - 朱鷺の杜 (http://ibisforest.org/index.php?最大エントロピー)
- 先ほどの例だと、

 $Pr[N|d_x] > 0.99, Pr[N|d_x] << 0.005, Pr[N|d_x] << 0.005$ となり、Nさんによって書かれた可能性が高いことがわかる

・素性の定義がとても重要

nltk.MaxentClassifier

- NLTKには各種の機械学習アルゴリズムが含まれている
 - nltk.classify.* 標準化された素性フォーマット, 簡易的な評価が行える
 - 今回は最大エントロピー法分類器(nltk.MaxentClassifier)を用いる
- MaxentClassifierは教師あり分類器である
 - 正解ラベルと素性集合が学習データとして必要
 - 学習事例(Training Examples)はラベルと素性集合の組
 - CLCコーパスは訂正情報付き!正解ラベルはある
 - となると、残るはどのような素性を使うか...

nltk.MaxentClassifierのための学習事例

• nltk.classifyが扱える事例のフォーマット

```
training_set =
[({"feature":value, "feature":value,...}, label),
  ({"feature":value, "feature":value,...}, label),
...]
```

- •素性集合: {"feature": value, "feature": value,...}
- ・前置詞の正しさにはどんな素性(特徴量)が関係しているか...
 - 前後の文脈(単語)や品詞は何なのか
 - 他にもっと良い素性は無いのだろうか...

素性を抽出する関数

- ある入力に対する素性を抽出する関数をつくる
 - 文中の前置詞に対して、その前後の数単語をとらえたり それらの品詞を取得したり...
- ・簡単な素性関数(前置詞直後の単語)

```
def successor(sentence_list, ppindex):
    return {"succ_%s"%(sentence_list[ppindex + 1]): 1}
```

・今回は二値素性(on/off)のみを用いる

素性抽出関数の例: 品詞素性

- NLTKには各種POS Taggerが含まれている
- 今回はPennTreeBankで学習したnltk.pos_tagを使う
- 使用例:
 - sentence: str, words: list

```
words = ["The", "cat", "is", ...]
tagged = nltk.pos_tag(words)

tagged:
[("The", "DT"), ("cat", "NN"),...]
```

```
words = nltk.word_tokenize(sentence)
nltk.pos_tag(words)
```

- 入力は単語単位のリスト(nltk.word_tokenize(sentence))
- feature_extractor.py を参考に作ってみよう

評価の前に...

- 学習データとテストデータはあらかじめ分けておく
 - 「正しい評価」をおこなうにはどのような状態が必要だろうか
 - テストデータが学習データに含まれると何がまずい?
- 評価尺度
 - 正解率 (accuracy) を評価尺度とする

```
accuracy =
(num. of correct output) / (num. of input instances)
```

分類器の学習・テストのしかた

• 学習

テスト

```
def test(classifier):
    testset_features = <a list of dictionaries>
    testset_labels = <a list of strings>
    testset = zip(testset_features, testset_labels)
    accuracy = nltk.classify.accuracy(classifier, testset)
```

休憩?

学習には時間がかかります。 終わらないかも・・・



評価: そのモデルで大丈夫?

- Accuracyはどうでしたか?
- MaxentClassifierは多クラス分類器
 - 本当は "at" だったのに "in" だと出力した場合と "on" だと出力した場合はどちらが多いんだろう...

分類器が間違いやすいケースを特定したい!

- そこで混同行列(Confusion Matrix)!

```
classifier_outputs =
     [nltk.MaxentClassifier.classify(t) for t in testset_features]
cm = nltk.ConfusionMatrix(gold_labels, classifier_outputs)
print cm
```

より良いモデルを求めて...

・どの素性が精度に寄与しているのか調べたい...

```
print nltk.MaxentClassifier.show_most_informative_features(n = 10)
```

- 上位10個の素性とそのラベルが表示される
- シンプルな素性では正しい文の特徴を捉えられないときがある
 - 誤り事例や,元のコーパスをもう一度眺めてみる...そして考える
 - 単語の活用形ではなく、原形を入れてみてはどうだろうか
 - より広い範囲の構文的な情報を取り込むとどうなるだろうか
 - 誤りの傾向は?素性に取り込むにはどうするか・・・



おつかれさまでした!

また会う日まで・・・